

どう防ぐ?



ネット トラブル 16

ネットショッピングに代表されるネット上での売買「電子商取引(eコマース)」が急成長を遂げている。しかし、現物・現金を介した対面販売でないだけに、さまざまな課題も山積。今回は利用急増中の電子商取引について書きたい。

イメージや送金、配送、返品方法など、慣れや多少の知識が必要なこともある。特に注意なのは、ネット上で商品を購入した場合、「クーリングオフが適用されない」こと。子どもが誤って「ゲームソフトを100個」と注文してしまった場合でも、購入義務が生じる場合がある。

①として、販売者が悪意を持っていないにも関わらず、購入者との意思疎通が不十分な場合のトラブルがある。写真と実物の相違(色、サイズ、

②として心配される代
表例がフィッシング詐欺。これは本物そっくり
に作った偽物のサイトに
誘導し、個人情報を入力
させるといふもの。防ぐ
ためにまずは正規サイ
トか偽物なのかを見分けて

ほしい。

ポイントとは2点。

一つはhttp://
で始まるURL(ホーム
ページアドレス)。正規
ことが多い。スマホやタ

サイトは短く社名がその
まま入っていることが多
いが、詐欺の場合は意味
不明な長い文字列である
ことが多い。スマホやタ

ネットショッピング

「電子商取引」利点の裏には



ブレットでもURLは表
示されるので確認を。

もう一つは、個人情報
入力の際、そのページの
アドレスの最初が「http://」から「s
s://」になり、画面

のどこかに「鍵マーク」
が表示されていれば正
規。これはSSLという
個人情報暗号化技術が
使われている証拠で、
まともなサイトなら
ば確実に使っている。

また、あまり有名な
いサイトを利用する場
合は、その会社やペー
ジの信ぴょう性を確
認するため、▽販売
業者の連絡先(実店
舗の有無、所在地
や電話番号)の記載▽
特定商取引法が定め
る事項

(代金の支払い時期と
方法、商品の引き渡し
時期、キャンセル方法
など)の記載▽返品
条件(可否や条件)の
記載▽「https://」
の有無の確認を。

どんな機器を使っ
ても、個人情報を入
力するのとその情報
が端末に残る可能性
がある。共用PCや
ネットカフェなど
で個人情報を入
力するのは避
けて。特に銀行
系(ネットバン
キング)・証券
系は自分の端
末で行うことを
強く勧めたい。

ここに挙げたものを
すべてクリアしても
絶対安全とは言え
ない。できる
だけの知識を持
ち、利点と心配
をしっかりと意
識して、賢く使
うのが大切だ
と思う。